

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

中学校区 校番 14 学校名 呉市立本通小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	・目標と現状を踏まえた上で、具体的な指標へとつなげている。 ・9年間を通してのビジョンを、教職員、子供たちが共感し、日々の中で意識して取り組んでいる様子が見られる。 ・令和6年度は、中期経営目標を設定していから3年目にあたり、短期経営目標の指標の目標値を昨年度より上げて設定しているところが3カ所あり、高みを目指して努力をされていると思います。
目標達成のための方策の適切さ	A	・児童自らのやる気、気付きを大切にし、保護者に向けた取組等の工夫が伺える。 ・色々と取り組んでいる姿勢が見られる。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・全国・県平均との対比や、児童・教職員双方面からのアンケート等の分析はわかりやすい。また、数値だけでなく、その内容についての分析もしている。成果と課題の提示がわかりやすい。 ・具体的かつ明確に行っている。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・課題からの具体的取組、工夫がある。 ・改善することに対して、いろいろ考えられている。
その他		・授業のめあてがはっきりしていて、それに向けての先生の準備、児童の取り組む姿が印象的でした。先生も児童も明るく楽しく授業をしていました。 ・具体的で重点化されている内容である。 ・学校評価が学校や一人一人の教職員のやる気を高め、より良い教育活動を進めていこうとする意欲につながれば良いと思います。時代が変化していく中で子供たちと向き合い、しっかり関わってほしいです ・平日にも関わらず、父親の授業参観が見られ、両親が共に子供の教育に関心を持っている姿は良いことだと思いました。 ・タブレットを活用しての授業は、児童の「意欲を高める」「理解度を高める」効果があるのは、児童の目が輝くことでわかりました。「思考の深化や広がり」には、どのように効果が期待できるのかも知りたいと思いました。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・PDCAサイクルを大切にし、取組や実践の検証をスモールステップで行っていく。 ・ICTの活用、思考ツールの活用、協働場面の工夫をすることにより、児童の思考を深める授業づくりを行う。 ・防災について学習したことを家庭や地域に発信し、防災意識をさらに高めていく。 ・教職員全員が、今後の改善策を意識することができるよう、主任が声掛けをし、その進捗状況を把握する。
--------------------	---